

# 航空保安検査に関する要望について

# 1. 保安検査の位置付けについて

## ① 保安検査受検の義務化

- 現在は航空会社と旅客との運送約款に規定
  - ⇒ 旅客への拘束力が弱い
  - ⇒ 検査時や持込禁止品の処理の際のクレーム・トラブルの要因

## ② クリーンエリアへ危険物等を持ち込んだ場合の罰則規定

- 現在は航空機内に危険物等を持ち込んだ場合の罰則規定のみ
  - ⇒ クリーンエリアに危険物等を持ち込んだ場合の罰則規定はない
  - ⇒ 故意に機内へ危険物等を持ち込んだ場合の罰則規定の厳格運用を

航空法及び航空の危険を生じさせる行為等の処罰に関する法律  
への明文化と厳格な運用



◎ 保安検査の位置付けの明確化

◎ 検査員のステータス、モチベーションの向上

## 2. 保安検査の主体と役割分担について

### ① 航空保安検査責任主体

- 米国同時多発テロ以降、各国では国又は空港会社が責任主体に
  - ⇒ 我が国では航空運送事業者が責任主体
  - ⇒ テロ対策は国家レベルの課題であり、航空会社の対応では限界があるため国の関与が必要

### ② 国の役割・責任

- 各航空会社と検査会社との契約について、空港会社に事務委任が進む
  - ⇒ 空港会社の経営状況に左右されることのないよう、国の関与が必要  
(例：補助金)

役割分担の明確化



- ◎ 航空保安に関する国の役割の明確化
- ◎ 安定した保安検査の提供

## 3. 保安検査の量的・質的向上について

### ① 安定した人材・人員の確保

➤ 高い離職率の要因

⇒ 拘束時間の長さ、休日数の少なさ、早朝深夜にわたる不規則な勤務、クレーム増加による使命感の喪失

- 拘束時間短縮には人員増が必要…人件費増加で検査会社には負担大
- 保安検査の量的・質的向上には定着率の向上取組みが必要不可欠
- 現行ポスト単価の見直し、実働時間契約から拘束時間契約への変更

### ② 先端機器導入に伴う検査会社の対応と課題

➤ 高性能機器〔スマートレーン, PRS (旅客通過監視システム), CT機など〕 導入促進

⇒ 検査の質的向上、検査員の負担軽減、旅客の利便性向上には重要

…機器更新の都度、教育・慣熟訓練・社内任用試験で時間と費用が嵩む

**国等による支援・補助が必要**

◎ 定着率向上に伴う人材採用費用の軽減

◎ 経験値、ノウハウのある検査員の安定的確保

◎ 安定した人材・人員の供給 ◎ 魅力ある職業

## 4.機内持込手荷物と制限品等について

### ①機内持込手荷物

- 運送約款には、機内持込手荷物は旅客一人1個と規定  
⇒殆どの旅客が複数の手荷物を持参
  - 「機内持込手荷物は1個」の広報及び厳守を徹底

### ②機内持込制限品・輸送禁止品

- 平成22年9月より、国土交通省航空局が「機内持込制限品の取扱いに関する指針」を策定し、「機内持込制限品リスト」を同省ホームページで公開  
⇒旅客に周知されていない
  - 旅客への積極的な広報が必要
  - 保安検査場での制限品・禁止品の自己申告を義務化

国や関係機関における積極的な広報の実施と関係法令の整備

- ◎混雑の緩和及び確実な検査の実施
- ◎検査員の負担軽減